

会議名 平成24年度第1回ニセコ町観光審議会

開催日 平成25年3月19日	会議時間	開会 PM 6:00 閉会 PM 8:00
会議場所 ニセコ町役場 第2会議室	記録者	商工観光課観光戦略推進係 主任 川埜 満寿夫
出席者 委員：中島委員、工藤委員、高林委員、小原委員、岩田委員、下田委員、 高井委員、田中委員、千葉委員、牧野委員、三浦委員、渡辺委員 役場：片山町長、山本商工観光課長、小椋観光戦略推進係長 川埜観光戦略推進係主任		
欠席者 委員：大野委員、松本委員、		

会議日程

- (1) 委員の委嘱
- (2) 会長及び副会長の互選

議事

- (3) ニセコ町観光振興計画の改訂について

会議内容

- ・会長及び副会長の互選
出席委員の互選により、
会長：中島日出男委員、副会長：下田伸一委員
- ・ニセコ町観光振興計画の改訂について
事務局から、資料1～4に基づき説明した。また、観光局・観光圏の取組み状況についても説明した。
【意見等】
(片山町長)
 - ・計画の目標として宿泊数70万人としているが、その戦略について説明の追加を。
→市場規模が減少する中、泊数は減少傾向にあるが、リピーターの確保に向けた取り組みや今回の改訂で柱の一つに加えた長期滞在の推進を図り、目標達成を目指していく。
(千葉委員)
 - ・総花的な計画内容で、計画としてこれはこれでいいと思うが、誰がリーダーシップをとって計画を実行していくかが重要。大きな絵を描いてもいいが、実行していく体制があるのか。
 - ・観光協会や商工会の動きが、私には感じられない。
 - ・現状で観光局を立ち上げて、なおさら体制が曖昧になるのではないか。
 - ・昔は、各部会が活動し、会員の意見を吸い上げ実行してきた。

(渡辺委員)

- ・それぞれ見方は異なると思うが、意見を出し合う場は設けられていると思う。
- ・観光戦略会議でもは会議で出た意見を実践し、成果となって現れているものもある。

(千葉委員)

- ・結果として、人が集まらず、活動が低迷化してきているのであれば、その原因を探り、打破するような運営をしなければならない
- (山本課長) 一体感のようなものだと思う。昔の協会は会員制で、その取り組みの効果や評価は別として、一体感があった。今のニセコの課題の一つだと思う。

(工藤委員)

- ・商工会でも、部会活動の活性化を図るように取り組んでいる。平成25年度では予算化もしている。現状、参加者の減少や固定化が進んでいるのは事実。
- ・何もしていない訳ではなく、各組織で一つずつでも動いている状況がある。
- ・地域でのではないか。
- ・「観光」に対して地域がどういった意識を持つか、或い地域には持たせていくのか、意識をどう高めていくかが課題。

(千葉委員)

- ・実行体制で、トップとボトムで意識に温度差があるのではないか

(中島会長)

- ・良し悪しは必ずあるが、昔は昔のやり方で、今は今のやり方で動いている。
- ・協会でも、例えば、ウェディング観光の企画を賛同いただける事業者と取り組んでいるところ。それぞれが、常に地域をどう良くしていくかの共通目的で取り組んでいる。

(田中委員)

- ・ブランド観光圏など、良いものを造ることができれば、事業者はそれに賛同してくる。そうすれば温度差はなくなっていく。
- ・主体が行政なのか、民なのか早く決めることが必要。

(中島会長)

- ・これまでの単体でのPR・集客活動には限界が来ている。その限界を超えるのが、ある意味観光局だと理解している。
- ・これまでどおりでは、明るい未来はない。危機感をもって取り組んでいる。

(千葉委員)

- ・協会の株式会社化により、これまでの公的な部分・役割が無くなった。
- ・役場と協会が一体となるべきでは。窓口を一本化してほしい。

(牧野委員)

- ・資料3の44ページに推進体制が示されているが、つながり・関連性が分りづらい。すっきりとした組織体制にしなければ、外からは見えてこない。

(中島会長)

- ・観光振興の教科書としては、計画はこれでよいと思う。後はどう実行していくか。具体の行程表をどうしていくか。どう成果を生んでいくのか。
- ・現在の役場のスタンスだと思っているが、今の取り組みの方針は、やる気の有る人をサポートしていくこと。

- ・一体感が感じられないのは私も感じているところで、今後も意思疎通は不可欠なので、協会としても各事業者とコミュニケーションを図っていく。

(牧野委員)

- ・高齢化、固定化でいえば、商工会女性部で実施してきた花壇の管理が、現実的に今年度からできない状況になっている。

(中島社長)

- ・これまで続けてきたことも、維持ができなくなってきていて各取組みが曲がり角となっている事実がある。

(山本課長)

- ・中央倉庫群の倉庫邑のイベントなど、仕掛けかた次第でうまく実施できている例がある。

(片山町長)

- ・昔は、協会の事務局を役場で行っており、全て役場がやってきた。だが、これからのことを考え、民が主導となり進めていく時代となっていく、その必要性から法人化した。
- ・やはり役場が手とり、足とりする時代ではない。民主主義はスタート平等だと考えている。役場の会議などは全てオープン。その中で、本当にやる気のある人が活動できるように支援していきたい。
- ・歌声バスが良い例。思いを持った人がどんどん前にでて活躍し、それを周りは暖かく見守っていく。役場はあくまでその下支え

(中島社長)

- ・いろんな議論の場を設け、回数を重ねていくことが重要
- ・この審議会のように、いろんな立場の代表者が集まって、意見・考え・意思のすり合わせをし、共通認識を作っていく。

(工藤委員)

- ・駅に事務所を設けて感じるが、人の動き、流れが変わってきている。アジア系の観光客が駅前をうろうろしている。駅の周りでの時間の過ごし方の提供を考えていく必要がある。

→ (山本課長) 中央倉庫群の計画もあるので、そこでの対応が考えられる。3月28日に中央倉庫群についてまちづくり町民講座が開かれるので、ぜひみなさん参加を。

(千葉委員)

- ・今のニセコには若い世代がたくさんいる。その若者たちが盛り上がる場を設けるべき。

以上のとおり。

ニセコ町観光振興計画の改訂内容について、修正や追加事項等なく議事終了した。